

国公立医科大学長
国公立大学医学部長 殿
各関係機関の長

山形大学大学院医学系研究科長
上野 義之
(公印省略)

感染症学講座担当教授候補者の推薦について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、感染症学講座担当教授の令和4年3月31日付け定年退職に伴い、後任の教授候補者を公募することとなりました。

ついては、貴機関又は関係機関において、微生物学の研究実績を有すると共に、ウイルス学・細菌学・寄生虫学をはじめとする感染症学分野への造詣が深く、広く同分野における教育を担当可能で臨床感染症医療人材育成についても協働いただける適任の方がおられましたら、下記により御推薦くださいますようお願い申し上げます。

おって、候補者の方には選考の過程で御来学若しくはweb上で、面談及び御講演いただく場合がありますので、あらかじめ御承知おき願います。

謹言

記

1 提出書類

以下の提出書類全てについて、紙媒体及び電子ファイルを各1部提出お願いします。

- (1) 推薦書（A4判・縦型、様式自由）
- (2) 履歴書（様式1）
- (3) 業績目録（様式2）
- (4) 公募による研究費受領状況一覧（様式3）
- (5) 研究の概要と今後の展望
（A4判・縦型、2,400字以内、様式自由）
- (6) 医学教育に対する取組みと抱負
（臨床感染症医療人材育成にも言及ください）
（A4判・縦型、1,200字以内、様式自由）
- (7) 主要論文別刷（20編以内）
- (8) 被引用回数トップ10論文リスト（様式4）
（令和3年12月現在、Web of Science もしくは Google Scholar による）

2 待遇等

任期は5年間とします。採用時からテニユアトラック期間（5年）満了時まで
に学内規程に基づくテニユア審査が行われ、可とされた場合にはテニユアが付与
されます。

※本学のテニユアトラック制度については、下記をご参照ください。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/recruitment/20201105/>

(1) 給与

国立大学法人山形大学年俸制（Ⅱ）適用職員給与規程による年俸制。
経験等を考慮し、基本年俸を決定します。

(2) 保険

文部科学省共済組合（健康保険・厚生年金）、雇用保険、労災保険

3 書類提出先 〒990-9585
山形市飯田西二丁目2-2
山形大学大学院医学系研究科長宛
(封書には「感染症学講座教授公募書類在中」と朱書のこと。)

4 公募締切日 令和4年1月31日(月)必着

5 問い合わせ先 山形大学飯田キャンパス事務部総務課人事・労務担当(人事)
TEL 023-628-5005
FAX 023-628-5019
メールアドレス yu-isojin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

6 その他

山形大学では全学をあげた男女共同参画の推進と、ワークライフバランスの実現に取り組んでいます。本学には、小白川キャンパス保育所、医学部保育所・病児保育室など、各キャンパスに保育支援制度があり、子育て支援が充実しています。

また、ダイバーシティ研究環境実現のために、研究継続支援員制度、学会参加時の保育支援制度はじめ、女性研究者の活躍を支援する制度を整えています。詳細については、下記URLをご覧ください。

山形大学男女共同参画推進室 <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

(様式1)

履 歴 書

(令和 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日現在)

ふりがな 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
氏 名: 〇 〇 〇 〇 昭 和 42 年 (1967) 〇 月 〇〇 日生 (〇〇歳) 性別
(旧姓名: 〇 〇 〇 〇)

所属・職種: 〇〇大学〇〇学部〇〇学第二講座・准教授
〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇
電 話: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 (直通) FAX: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
メール: 〇〇〇〇@〇〇〇〇〇.〇〇.jp

現 住 所: 〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇-〇〇〇号室 本籍: 〇〇〇県
電話: 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

学 歴: 昭和61年(1986) 3月 〇〇高等学校卒業
平成 4年(1992) 3月 〇〇大学医学部医学科卒業
平成〇〇年(〇〇〇〇) 4月 〇〇大学大学院医学研究科医学専攻入学
平成〇〇年(〇〇〇〇) 3月 同 上 修了

免 許 等: 平成 4年(1992) 4月16日 医師免許(第〇〇〇〇〇〇〇号)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 厚生省〇〇〇〇〇〇資格認定医(第〇〇〇〇〇号)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 日本〇〇学会認定〇〇医(第〇〇〇〇〇号)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 日本〇〇〇〇学会認定指導医(第〇〇〇〇〇号)
学 位: 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 医学博士(〇〇大学), または博士(医学)(〇〇大学)

職 歴: 平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 国立〇〇病院医員(研修医)(外科)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 同上 辞職
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部助手(〇〇学第二講座)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 同上 辞職
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇県立〇〇病院(〇〇部)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 同上 辞職
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇〇月 〇日 米国〇〇〇〇〇〇〇大学研究員(〇〇学)
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 帰国
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部附属病院助教(〇〇部)
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部講師(〇〇学第二講座)
令和〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部准教授(〇〇学第二講座)
現在に至る

所属学会等: 日本〇〇学会(評議員: 平成〇年~現在)
日本〇〇〇〇学会
日本〇〇〇〇〇学会(評議員: 平成〇年~現在)

社会貢献: 〇〇病院への応援診療(平成〇年~現在)
〇〇県〇〇〇審議会委員(平成〇年~令和元年)
〇〇〇高校における講演「〇〇〇〇〇(演題)」(令和〇年〇月〇日)
※特筆すべき活動のみを記載してください。

賞 罰: なし

記載例

業 績 目 録

(枚のうち 枚目)

氏 名:

[原著] ・ [症例報告] ・ [総説] ・ [国際学会のProceeding]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者 区分	責任著者 の有無	インパクト ファクター	ランク
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M	Malignant Clinical features of anaplastic gliomas without IDH mutation	Neuro Oncol 17 136-144 2019	◎	●	9.0000	Q1
(oooooooooooooooooooooooooooo, ooooooooooooooooooooooooooooo, ooo.)						
2 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	Angiographic circulation time and cerebral blood flow during balloon test occlusion of the internal carotid artery	J Cereb Blood Flow Metab 34 136-43 2018	◎		5.4900	Q1
3 Yamagata T, Beniya H, Yonezawa E, Sagae M	Risk assessment for venous thromboembolism in patients with neuroepithelial tumors: pretreatment score to identify high risk patients	Neurol Med Chir(Tokyo) 53 455-466 2017	◎			
4 Beniya H, Yonezawa E, Sagae M, Yamagata T	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH mutation	Neuro Oncol 15 iii223 2017		●	9.0000	Q1
5 山形太郎, 紅屋花子, 寒河江光政	バルスジェットメスをを用いた蝶形骨縁髄膜腫摘出手術-血管温存能を活用して	脳神経外科 42 1019-1025 2018				
6 上山洋一, 米沢恵美子, 山形太郎	脳腫瘍の最新治療法	Convection-enhanced delivery Clinical Neuroscience 31 1186-1187 2017				

[著書]

執筆者名	執筆タイトル	著書名 (頁・年)	編者名	出版社
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	The role of IDH1 and IDH2 mutations in malignant gliomas. In: Hayat MA, editor	Tumors of the central nervous system, vol.2 2017		Springer
2 山形太郎	緊急対応を要する脳腫瘍 神経救急診療の進め方	脳神経外科 診療プラ pp167 2014 クティス4		文光堂

[学会発表]

発表者名	発表タイトル	発表学会名 (開催地・年)
1 Yamagata T, Higashine O, Sagae M	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH gene mutation. (Poster)	The 4th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology San Francisco USA, 2017
2 山形太郎, 寒河江光政	神経膠腫発生に関与する遺伝子異常 (プレナリーセッション)	第32回脳神経外科コンgres 横浜 2016

記入要領 (様式2)

1 原著, 症例報告, 総説, 国際学会のProceeding, 著書及び学会発表の順に, 各項目に分けて記載してください。

なお, 印刷中 (In Press) の論文については受理証明書若しくはDOIを添付・併記してください。

2 項目ごと英文を先, 和文を後とし, 年代の新しいものから順に記載してください。

3 具体的記載について

(1) 原著, 症例報告, 総説, 著書及び国際学会のProceedingについては, 原則として記載例にならってください。

なお, 次の点にも御注意ください。

- ・ 雑誌の略誌名は, Index Medicus 及び医学中央雑誌に収載されているものに準じる。
- ・ 全著者名を記入し, 本人名には下線を付する。
- ・ 主要論文 (20編以内) に○印を付け, 日本語で数行以内の概要を記入してください。
- ・ 原著 (英文), 症例報告 (英文), 総説 (英文) のうち, 筆頭著者の論文には◎印を, 第2著者の論文には△を, 責任著者の論文には●印を付してください。(筆頭著者かつ責任著者の場合は◎●, 第2著者かつ責任著者の場合は△●)
- また, 著者名が2番目でも, 共同の筆頭著者である場合も◎を付けてください。
- ・ 2020年におけるインパクトファクターのランクがQ1, Q2であるジャーナルの場合は, Q1又はQ2を併せて付してください。

(2) 学会発表については, 全国規模の国内学会 (地方会・支部会除く) での特別講演, 教育講演, シンポジウム等, 及び国際学会で筆頭者として発表したものに限りま。

記載例

公募による研究費受領状況

(過去10年間)

氏 名:

年 度	種 目 (代表・分担の別)	研 究 課 題 名
2020	文部科学省科学研究費補助金 (萌芽) (代)	△△△△に関する研究
	〇〇生命厚生事業団助成金 (代)	▽▽▽▽に関する研究
2017	文部省科学研究費補助金 (基盤B) (2017年度～2019年度) (分)	□□□□に関する研究
	厚生省〇〇〇〇研究助成金 (2015年度～2017年度) (代)	〇〇〇〇に関する研究
	〇〇〇〇記念医学振興財団助成金 (代)	◇◇◇◇に関する研究

(様式4)

記載例

被引用回数 Top10 論文リスト

(枚のうち 枚目)

氏 名:

[原著] ・ [症例報告] ・ [総説] ・ [国際学会のProceeding]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者 区分	責任著者の 有無	インパクトファ クター	ランク	被引用 回数
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M	Malignant Clinical features of anaplastic gliomas without IDH mutation	Neuro Oncol 17 136-144 2019	◎	●	9.0000	Q1	150
(oooooooooooooooooooooooooooo, ooooooooooooooooooooooooooooo, ooo.)							
2 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	Angiographic circulation time and cerebral blood flow during balloon test occlusion of the internal carotid artery	J Cereb Blood Flow Metab 34 136-43 2018	◎		5.4900	Q1	125
3 Yamagata T, Beniya H, Yonezawa E, Sagae M	Risk assessment for venous thromboembolism in patients with neuroepithelial tumors : pretreatment score to identify high risk patients	Neurol Med Chir(Tokyo) 53 455-466 2017	◎				110
4 Beniya H, Yonezawa E, Sagae M, Yamagata T	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH mutation	Neuro Oncol 15 iii223 2017		●	9.0000	Q1	90
5 山形太郎, 紅屋花子, 寒河江光政	バルスジェットメスを用いた蝶形骨縁髄膜腫摘出手術-血管温存能を活用して	脳神経外科 42 1019-1025 2018					50
6 上山洋一, 米沢恵美子, 山形太郎	脳腫瘍の最新治療法	Convection-enhanced delivery Clinical Neuroscience 31 1186-1187 2017					45

記入要領 (様式4)

- 1 記入要領は様式2と同様とし、被引用回数が多い順に10編記載してください。
- 2 令和3年12月現在、Web of Science もしくは Google Scholar上のデータにより整理してください。